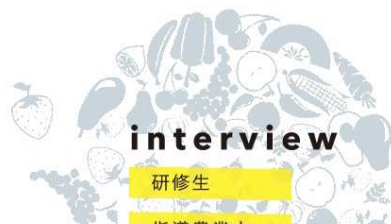


やすぎ 就農BOOK



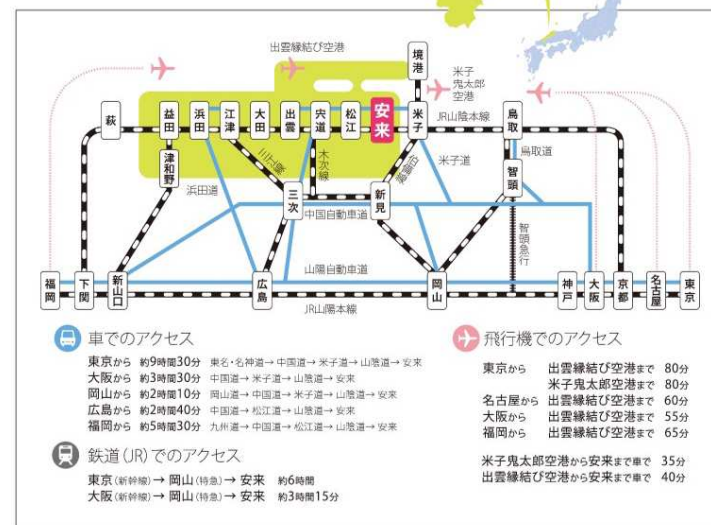
interview

研修生

指導農業士

認定新規就農者

地域おこし協力隊員



就農に関するお問い合わせは

安来地域担い手育成総合支援協議会
 (安来市農林水産部 農林振興課)

Tel.0854-23-3330

〒692-0207 島根県安来市伯太町東母里580 fax.0854-23-3382

e-mail: shinkou@city.yasugi.shimane.jp

http://www.city.yasugi.shimane.jp/busyo/sangyou/nourin/kensyu/

島根県東部農林振興センター
 松江農業普及部 安来支所

〒692-0025 島根県安来市穂日島町303

Tel.0854-22-2341 fax.0854-22-4352

e-mail: noshin-yasugi@pref.shimane.lg.jp.

JALまねやすぎ地区本部
 担い手支援センター

〒692-0025 島根県安来市穂日島町303

Tel.0854-23-0255 fax.0854-23-0255

e-mail: ninaite.yas@ja-shimane.gr.jp

安来市農業委員会

〒692-0207 島根県安来市伯太町東母里580

Tel.0854-23-3360 fax.0854-23-3383

e-mail: nougyou@city.yasugi.shimane.jp

発行/安来地域担い手育成総合支援協議会(安来市農林水産部 農林振興課)

2016年7月発行 *無断転載、コピーはご遠慮ください。

安来で就農しよう

島根県の東端、鳥取県との県境に位置する安来市。

南には中国山地に連なる山々が横たわり、

そこを源流とする飯梨川と伯太川の2本の川の間に

広大な能義平野が広がっています。

肥沃な大地は県内有数の農業地帯として恵みをもたらし、

水稲、いちご、ぶどう、梨、花き、葉物野菜などの産地として

多くの安来ブランドを生み出しています。

Uターン者を中心とした有機農業グループの活動を応援し、

農業研修の受け入れにも積極的なことも安来の風土。

農業に夢をもち、共に挑み続ける新しい風を歓迎します。



ベテランから新規就農者まで
 たくさん先輩就農者があなたの夢を支えます

刺激あふれる
 仲間が
 ほしい！

私でもできるから
 大丈夫。

安来地区
 就農歴
 11年

イチゴが色づく
 とワクワクします！
 でも休みが少なく
 大変な仕事です。

遠藤浩恵さん(44歳)
 生産物/イチゴ
 出身/島根県奥出雲町
 家族/夫、子ども2人、母親
 きっかけ/介護の仕事から、
 農家に嫁いだのが
 きっかけで就農！



広瀬地区
 就農歴
 3年

行政、JA、仲間の連携による
 サポートがしっかりしていて
 みんなに相談しやすいです。

小池愛子さん(40歳)
 生産物/花き(かすみ草、芍薬など)
 出身/島根県隠岐
 家族/夫、夫の両親
 きっかけ/結婚を機に安来へ。
 夫が花き栽培をしていた影響で
 私もうやりたくなりました。



広瀬地区
 就農歴
 2年

雑草対策は大変だが
 順調な生育を見て、収穫が
 できることが、嬉しくて楽しい。

佐藤明次さん(東京出身・47歳)
 香苗さん(安来出身・39歳)
 生産物/花き(トルコキキョウなど)
 アスパラ
 家族/子ども1人、香苗さんの両親
 きっかけ/子育てのために移住を
 考え、島根県で就農という選択肢に
 出会いました。



施設野菜の栽培のほか、
 米麺、米マカロニなどの
 加工品も手がけています。

広瀬地区
 就農歴
 16年

中村一人さん(46歳)
 生産物/施設野菜、
 米粉の加工品
 出身/大阪府
 家族/妻、子ども3人
 きっかけ/Uターン雑誌を見て、
 島根県の農業支援が
 手厚かったのも魅力でした。





就農歴
10ヵ月

認定新規就農者／元薬物研修生
花谷智史さん(51)

「安 来で一緒に農業をしよう」。農泊をしてきた土肥さんが、安来市の農業体験ツアーに参加したとき、こう声をかけてくれたのが後に師匠となる岸川さんだった。岸川さん自身も15年前研修制度を利用して安来市に1ターンし就農した。一貫して有機栽培にこだわった野菜づくりに取り組み、現在は「島根おやさい本舗」の中心メンバーとして活動する傍ら、県認定の指導農業者として研修生を積極的に関入している。

「仲間を増やしたい」という岸川さんの言葉が、安来で就農しようと思った決め手でした。土肥さん、体験ツアーの出会いが縁を結び、1年半の研修を経て平成26年8月に就農した。研修期間中は「技術や知識はやっていくうちに身につくけれど、色々な人とのつながりをもつことも大切」と考え、積極的に視察に回ったという土肥さん。今そのとき知り合った仲間とのネットワークが独り立ちした土肥さんの支えとなっている。

現在、岸川さんのハウスの傍で、11棟のハウスを構え、小松菜、水菜、ほうれん草を中心とした葉もの野菜を有機栽培している。地域の人たちみんなが温かく応援してくれて、いまだと土肥さん、岸川さんたち先輩1ターン者たちがつくってくれた道をさらに広げながら、地域に貢献できる農家としての基盤をつくることを目標にしている。

現在、岸川さんのハウスの傍で、11棟のハウスを構え、小松菜、水菜、ほうれん草を中心とした葉もの野菜を有機栽培している。地域の人たちみんなが温かく応援してくれて、いまだと土肥さん、岸川さんたち先輩1ターン者たちがつくってくれた道をさらに広げながら、地域に貢献できる農家としての基盤をつくることを目標にしている。

就農歴
13年

指導農業者
岸川勉さん(48)

有機野菜でつながる
仲間とのネットワーク

就農歴
1年
10ヵ月

認定新規就農者／元薬物研修生
土肥潤也さん(34)

研修先 きしかわ農園

ハウス 21 棟 (54a) を所有し、今年増棟も予定。これまでに3人の研修生を就農まで受け入れた。就農後は「赤江・オーガニックファーム」のメンバーとして共に活動している。

「中島地区は有機野菜のハウス園地として、全国区にしていきたい」と岸川さん。地域を盛り上げる担い手の育成にも積極的だ。



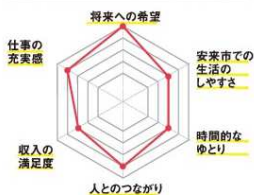
師匠の隣で
就農で安心強い

就農モデルデータ
栽培作物／小松菜、水菜ほか 初期投資／約1300万円
栽培面積／23a(ハウス11棟) 労働時間／
従業員／パート3名 1日平均13時間
主な販路／
島根おやさい本舗、JA

認定新規就農者の1日

04:30 起床
05:00 収穫
12:00 昼休憩
13:30 調整、出荷準備(終わるまで)
21:00 出荷(出荷準備が出来次第)
22:00 帰宅

就農後の満足度指数



Q. 農業の大変なところ・課題は?

A. 研修中にどういった農家になりたいか明確なビジョンをしっかりと持つことが、大切なところであり、大変なことだと思います。

Q. 安来を選んだ決め手は?

A. 安来の人に魅力を感じたこと、住みやすさ、研修中利用できる担い手支援センターの滞在施設があったことも決め手のひとつ。

朝とれたての
有機野菜を地元の
スーパーを中心に
卸してます



Uターン者を中心に結成した農家グループ 「赤江・オーガニックファーム」の有機野菜



赤江・オーガニックファームは、安全でおいしい野菜を消費者に提供したいと集まった安来市赤江地域のUターン者で、平成27年に結成。有機JAS認証を取得し、ハウス栽培で1年を通して、安定して葉物野菜を生産している。さらに生産力を販売力を拡大しようと、ハウスを園地化する計画もあり、同じ志をもつ新規就農者も募集。平均年齢40代の若いメンバーたちが、さまざまな社会経験を農業経営に活かす。赤江・オーガニックファームを全国区にしたいと情熱を注いでいる。

現在
研修中

先祖
ゆかりの地で
農業の道へ

薬物研修生
田村耕太郎さん(37)



安来市への移住を決意したとき、土地に根ざした仕事をたくて農業を選んだ。中島地区は地域が一体となって1ターン者を受け入れる体制が整っており、農業だけでなく、土地での暮らし方など、さまざまな距離感で見守ってくれるのが心地いい。研修に入ってから1年、肉体的にハードな作業もあるが、「喜びや苦労も分か合っている」と、田村さん夫婦。安来に根を下ろし、次の世代に引き継げる営農をしていくことが目標だ。

プロフィール
米子市出身。幼少期に東京に移住し、以後東京で暮らす。web系のエンジニアとして働いていたが、先祖ゆかりの地・安来市との縁を絶やしてはいけないと移住を決意。岸川さんと出会い農業の道へ。家族は妻・雅子さん(38)

周年栽培で安定出荷が行える。小松菜、水菜、ほうれん草を中心とした葉物野菜が作付のメイン。夏場はトマトなどの夏野菜も栽培している。





幼

い頃から自然が好きで、いつか農業を仕事にしたいと思っていました。大学卒業後、出雲市の農業法人で約3年勤務した後、平成26年1月に安来市にUターン。ずっと憧れ続けていた農業の道への一歩を踏み出した。現在JAしまねやすき地区本部担い手支援センターの研修制度を利用して、農業研修の受け入れ先であるいちご農家 池田さんの下で、今年9月の就農を目指し研修を重ねている。

収穫期にあたるシーズンは、朝6時に池田さんの畑に出て収穫作業をお昼まで行い、午後からバック詰め作業を夕方5時頃まで行っている。身体にも、担い手支援センターで栽培している親株の管理に行くなど、まさにいちご漬けの日々だ。

「今はやることすべてが将来の夢につながっている気がして、何をしても初めてのことはばかりで大変ですが、楽しさが上回っています」と石橋さん。実家は非農家だが、石橋さんの夢を家族みんなが応援してくれており、独立後はご両親とお姉さんと一緒に働いてくれる予定だ。「安来のいちごといえば石橋」と名前があがるくらい、周囲から評価されるような大規模な家族農業を目指します」と、壮大な夢をまっすぐ見据える石橋さんの言葉に、いまの充実感が溢れている。

いちご栽培歴
37年

指導農家士
池田憲司さん(59)

毎一縁、
マンツーマン研修で
就農の夢をかなえる

現在
研修中

いちご研修生
石橋賢一郎さん(27)

就農歴
2年

いちごが好きで就農！
認定新規就農者(いちご研修生
田中徳治さん(38)



実かなる作物は
見ていて面白い。

研修先 池田農園

37年前からいちごを栽培している安来いちごの先駆者。県、市、JAと連携して、安来いちごのブランド化の推進と後継者の育成に積極的に取り組んでいる。

「池田さんは目標とする農家の理想像。独立に成功することで、恩返しをしたい」と石橋さん。次代を担う若い力に池田さんも期待している。



Profile ● 石橋賢一郎

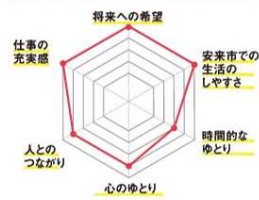
安来市出身。島根大学卒業後、出雲の農業法人に2年8カ月勤務し、安来市にUターン。非農家の家族の応援のもと、家族経営のいちご農家を目指す。

いちご研修生の1日

- 5:00 起床
- 6:00 収穫
(朝休憩あり)
- 11:30 親株管理
- 13:30 バック詰め
- 17:30 いちご集荷所アルパイト
- 20:00 帰宅



研修中の満足度指数



Q. 農業の大変なところ・課題は?

A. 初めてのことは何でも何をして大変ですが、夢を叶えている最中という思いが強く、新しいことを聞くとワクワクします。

Q. 安来での研修、良かったことは?

A. 就農支援に手厚く、独立する前に自分の力を試すことができる担い手支援センターがあることがありがたい。



やすぎのいちごは完熟収穫で、甘くておいしい。

行政・JA生産部会も強力にバックアップ!

いちご女子会が
やすぎのいちごを
PRしてます!



安来市は島根県内最大のいちこの産地。40年前から栽培がはじまり、いちこの生育に不利な冬の寒冷な気候条件のなかで、高い技術力でいちこの一大産地に育て上げた。一般的な果物よりもせず、完熟してから出荷するため、近隣でしか流通していないのもこだわりのひとつ。縁結びいちご「毎一縁プロジェクト」を立ち上げ、スイーツなどの商品開発やキャンペーン展開など、女性目標のPR活動を推進しブランド力を高めている。

営農モデルデータ

栽培作物/いちご(紅ほっぺ)
栽培面積/13a(ハウス)
従業員/パート4名
主な販路/JA共選出荷
初期投資/約1000万円
労働時間/農繁期3月~5月
1日平均10時間

プロフィール

鳥取県出身。建設機械のリース会社に勤務後、33歳で農業の道へ。実家は製菓家だが、好きないちごがつくりたいという農家に。池田農園などで1年7カ月研修、35歳で独立就農した。

「農業がしたかったというより、いちごが作りたいだった」という田中さん。いちこの産地安来で就農の夢を果たして2年。ハウス3棟、4人のスタッフとともに、「手がかる」「いちご格闘する日々だ。最初の年は失敗の連続。精神的に追い詰められたとき、師匠池田さんの「お前だけじゃなく」という言葉に励まされた。「ロスをなくし、効率よく収穫できる技術を開くことが当面の目標。難しいから面白味がある。好きないちごをつくっているので、ストレスフリーです」



収穫期は12月~5月末。ピークを迎える3月~5月は、休みなしで作業にあたる。完熟で収穫する安来いちごは手早くバック詰めされ、その日のうちに出荷される。



地域の担い手として 研修生を受け入れ

安 来市街地から南に35km 安来市の最南端に位置する比田地区、四方を比田連山に囲まれた標高300〜350mの開けた高原の盆地で、飯梨川源流の豊かな水を湛えた田園風景が広がっている。昼夜の寒暖の差が大きいことから、良質米の産地としても知られ、地域でとれた豊かな農作物を加工販売する「比田いきいき加工部」が活発に活動するなど、地域の資源を生かして、地域を盛り上げようと頑張っている人々が暮らす小さな中山間地域だ。この比田地区に昨年4月、安来市の地域おこし協力隊として、大阪から盛岡さんが家族とともに移住してきた。現在かみさこ農園で農業研修に入りながら、比田地区の地域おこし活動にも参加している。

「安来市の制度が充実していることに惹かれ」、2度におわり比田地区に下見に訪れた。「島根おやさい本舗の方々の話を伺い、自分もそのメンバーとなつて、この山間地の自然を生かしたいという野菜をつくりたいと思いました」と盛岡さん。そこで目にした豊かな自然と、その自然と向き合い、真摯に農業に取り組んでいる人たちの姿に憧れ、気持ちが大きく動かされたという。

研修先で指導を担当する上廻さんは、島根おやさい本舗のメンバーでもあり、またサラリーマン生活を経て、21年前Uターンで就農した先輩でもある。野菜づくりの技術やノウハウばかりではなく、田舎暮らしに大切な地域の人たちとの交流の橋渡し役となつて、盛岡さん家族の生活全般を支えてくれている。

「比田に来たとき、よく来たね」と地域の人みんなに声をかけてもらいました。この地域の担い手として、いずれは上廻さんのような研修生を受け入れる農家になりたいと、盛岡さん。目標は、2年後の就農だ。



地域おこし協力隊員
小田ちさとさん(29)

New Face!
地域おこし協力隊員
重森はるかさん(29)

New Face!
研修生
持永さんファミリー

地域おこし協力隊員
盛岡 渉さん(27)

現在
研修中

農業のイメージを
変えていきたい

研修生、地域おこし協力隊員
重森はるかさん(27)

就農を決定して、様々な地域を見学したなかで、支援体制の充実と、「農業に携わっている人がキラキラと輝いて見える」と安来市を農業研修の地に選んだ。まずは地域おこし協力隊として地域に溶け込みながら、かみさこ農園で栽培技術と経営について学んでいく。目標は独立就農。若い世代の人たちに農業が職業選択のひとつとなつていけるよう、新3K(カッコよく、感動があり、稼げる)を目指し、農業のイメージを一新したいと意を燃やす。

プロフィール
岡山県出身。大学院では作物に関する研究室に所属し、イデコやトマトの研究に携わる。卒業後、生産者団体勤務を経て、2016年5月、地域おこし協力隊として安来市へ。現在、かみさこ農園で農業研修を行っている。

かみさこ農園に来て2ヵ月。ニンニクやタマネギの収穫や、夏の収穫に向けアムスメロンの「玉吊り」の作業に取り組んでいる。

活動拠点は旧小学校
女性が輝く地域へ

廃校となった小学校を利用し、地元で栽培された農産物の惣菜や、特産のお米を使った餅やおこわなどの加工販売を地元住民で取り組む「比田いきいき加工部」。「比田をなんとかしなければならぬ」と地区の働ける女性を集め、2004年に発足した。現在、活動しているメンバーの中心は60〜70代。これから一緒に比田地区を盛り上げてくれる若い人材を募集していきたいと、会長の田邊チカ子さん。女性パワーが地域を元気にしている。

イベント「農業体験や地域の説明」も、小さなお子さんの活動も広がっており、さらにはおこわやお餅の作り方を教えるなど、小さなお子さんを育てる、10年後の未来を育てる。



研修先 かみさこ農園

施設野菜52a、露地野菜45aの規模で経営。島根おやさい本舗のメンバーでもあり、短期の研修生はこれまでも受け入れてきたが、長期にわたる研修生は盛岡さんが初となる。

「盛岡さんの農業への思いは、僕よりずっと強いですよ」と上廻さん。「せっかく比田を選んでくれたのだから、僕が教えられることはすべて教えてあげたい」と話す。



就農歴
20年

指導農家
上廻達矢さん(44)

現在
研修中

研修生、地域おこし協力隊員
盛岡 渉さん(27)



住まいも
地域の方に
提供していただき
ました。

Profile ● 盛岡 渉

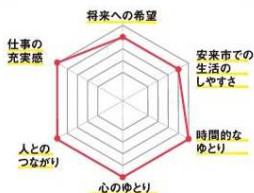
大阪府出身。近畿大学農学部を卒業。就農を目指し2015年4月に地域おこし協力隊員として安来市比田地区に、生後4カ月の長女とともに家族で1人暮らし。

比田研修生の1日

06:00 起床・朝食・準備
07:00 研修先で収穫
12:30 昼休憩
14:00 研修先にて作業
肥料、種撒き等
18:00 帰宅
21:00 家族と夕食後就寝



研修中の満足度指数



Q. 農業の大変なところ・課題は?

A. 外での作業なので、体力的なことや寒さが大変ですが、好きなことをやっているの苦になりません。

Q. 安来での研修、良かったことは?

A. 水がきれい、野生動物とも出会う豊かな自然がそのまま残っている所です。人が温かく親切で、僕たち家族に皆さん声をかけてくれ、慣れない暮らしを支えてくれます。*いただきものもたくさんで日々感謝です。



就農計画を作成し、認定新規就農者になる

- 農業所得目標：概ね 280 万円以上（就農 5 年後）
- 適切な資金運用計画を立てる
- 年間農業従事日数が 150 日

- 営農サポート／農業普及員による技術指導・経営指導、その他情報提供
- 施設整備／国や県の新規就農者を対象とした補助事業（補助率：1/3）
- 新規就農者向けにリースハウスを整備／国、県の補助によりリース料を軽減
- 自己課題解決研修事業／（営農課題解決のための先進地研修等に助成）
- 青年等就農資金等／経営開始時の施設整備や経営費等のための制度資金（無利子・上限 3700 万円、償還期間：12 年以内（5 年据置））

助成内容

- 青年就農給付金（経営開始型）
就農時 45 歳未満 最大 150 万円／年（前年の所得により変動・最長 5 年）
- 就農給付金（県単）45 歳以上 65 歳未満 75 万円／年（2 年間）

あなたの夢の実現を 応援します

研修を通じて、農業の基礎知識や経営技術など農業の経営者として様々な能力を習得してもらいます。それに加えて、あなた自身が、師匠となる指導農業者や地域の人々と積極的にコミュニケーションをとり、謙虚に何でも教えてもらう姿勢を持つことが大切です。

また、農業を目指す上では、自分が将来どのような農業経営を行いたいのかが、自分の目指す農業経営の将来像を明確にしましょう。そして、自分が目指す農業のイメージとそれに必要な資金、労働力、農地、住居の確保など様々なことを考慮に入れて綿密な経営計画をたてる必要があります。

現在の農業は、優れた経営能力に加えて、強い意欲と情熱なくしては、農業を経営として成り立たせることは非常に困難です。「農業に夢を持って、何が何でも成功する」という強い信念を持って挑戦してください。私たちは、相談、研修、就農の各段階で様々なフォローアップを行いながら、あなたの夢の実現を応援します。

お問い合わせは

安来地域担い手育成
総合支援協議会

（安来市農林水産部 農林振興課）

tel.0854-23-3330

安来 就農 検索



住まい

住まいについても
私たち、担い手協議会が
関係機関と連携して、
ご相談に応じます。
お気軽にご相談ください。

安来市農林水産部
農林振興課
藤原崇史（左）
佐伯明紀（右）

Step
4

いよいよ就農です。
ここからスタート!!

兼業農家になる

- 営農サポート
農業普及員による技術指導・経営指導、その他情報提供
- 施設整備
半農半X開始支援事業（補助率 1/3）
- 新規就農者にハウス整備支援
（補助率：事業費の 1/3＋資材費の 1/3）

助成内容

- 定住定着助成
●12 万円／月（12 ヶ月以内）

自営就農研修

研修用のハウスを借りて栽培の計画から実際の栽培、収穫、販売までの一連の作業を実践的に研修できます。

- 専門的な栽培や経営技術、知識の習得を目指し、農家や研修施設での研修（農家、JA 担い手支援センターなど）
- 農業士への弟子入り・経営研修・販売対策ほか

助成内容

- 青年就農給付金（準備型）
●就農時 45 歳未満
150 万円／年（2 年以内）
- 就農給付金（県単・Uターン準備型）
●就農時 45 歳以上
12 万円／月（12 ヶ月以内）
- 就農給付金（県単・Uターン親元研修型）
●三親等以内の親元農家研修
6 万円／月（最大 72 万円／年）

Step
3

半農半X実践計画の作成

- 農業所得目標：80 万円
- 兼業所得目標：120 万円

半農半X研修

- 専門的な栽培や経営技術、知識の習得を目指し、農家や研修施設での研修（農家、JA 担い手支援センター等）
- 農業士への弟子入り・経営研修・販売対策・ほか

助成内容

- 就農前研修経費助成
●12 万円／月（12 ヶ月以内）

雇用就農

- 雇用就農先を探し、就職活動を行う
- 雇用農業者として就農
- 雇用就農先で OJT 研修

安来市は新規就農者を応援します。

安来市は、島根県内でもとくに充実した研修メニューで農業経営者の育成に力を入れています。新規就農に必要な農業技術や経営管理を習得できます。自営就農（専業）だけでなく、半農半 X（兼業）、雇用就農の選択肢もあります。生活費支援や傷害保険加入で、研修中の生活をサポート。指導農業者や先に就農した先輩たちのアドバイスを受けながら、農業人への一歩を踏み出してみませんか。

Step
1

就農相談

農業で生きる決意を固める前に、まず相談。担い手協議会では農業に関する情報提供やアドバイスをしています。また、各地の就農相談会や農業体験ツアーへの参加もお待ちしております。



農家ミニ体験

本格的な研修を受ける前に、自分が本当に農業ができるかどうか、安来で暮らせるかどうか、実際に安来に来て、農業ミニ体験をしてみよう。

体験期間／3 日～1 週間



いちごの収穫研修

Step
2

安来市新規就農研修

◎ 師弟制度でマンツーマンの実技指導

島根県知事認定の指導農業者の下で、新規就農に必要な農業技術や経営管理を習得するための研修を実施し、就農後も相談役としてサポートします。

- 対象者／研修期間終了後、安来に定住し、新規就農が可能な方で農業に積極的に取り組む意欲のある方
- 研修期間／1 年以内
- 研修先／指導農業者農場（農業研修）、関係機関（農業）

就農の
決心

審査

やる気
計画性
自己資金
労働力

あなたが農業に
向いているか、
支援すべき人材
かなど、総合的に
審査します。

研修中の住まい

- 滞在費の一部を助成します
Uターンのための島根の産業体験事業
1ヶ月あたり 12万円（3ヶ月ごとに36万円支給）
- 滞在施設（宿泊施設）を利用できます
ワンルーム（52㎡・ロフト付・セパレート）
使用料 2 万円／月（光熱費は実費負担）
無料駐車場完備
- 傷害保険に加入（掛金は安来市負担）



働き方の
選択・決断！

半農
半 X

雇用
就農